

生態実験園で古代米を収穫

爽りの秋を迎え、十月十三日(木)午後零時三十分から、理学部南側の生態実験園で附属幼稚園園児六十数名を迎え稲刈りが行われた。

渡部総合科学部長や湯浅文学部長をはじめとした教職員、植物学教室の皆さんが交替で鎌をにぎり、手慣れた手つきで稲を刈り取っていった。最後は、職員の介助で園児たちも稲刈りを体験した。

長粒種の稲のほかに、古代米といわれる黒米(インディカ米)が植えられており、全員、珍しい黒米の収穫にほくほく顔であった。



「教育・研究」に関する自己点検・評価のための調査を実施

自己点検・評価委員会(委員長 牟田泰三理学部教授)では、平成四年度に「理念・目標及び委員会活動等」を重点に点検・評価したのに続き、平成五年度からは「教育・研究」を重点テーマに検討を進め、このたび、点検・評価を多面的に実施するため、アンケート調査を実施することになった。

高等学校へのアンケート調査、教員へのアンケート調査および学部一年生へのアンケート調査のほかに、学部・学科や研究科・専攻の実態調査も併せて実施される予定。

アンケート調査の依頼は、すでに行われており、十一月中旬までに回収され、来年三月末には報告書にまとめられる予定。

委員会では、自己点検・評価を広大の改革に反映させるためにも、構成員の率直な意見を求めている。

広島大学情報ネットワークシステム(HINET)披露式が行われる

去る九月十七日(木)午前十時から、広島大学情報ネットワークシステム「HINET(ハイネット)」の披露式が、工学部で学内外の関係者約百三十名が出席して行われた。

披露式では、最初に原田学長の挨拶、続いて今村総合情報処理センター長の挨拶があり、引き続き、文部省学術国際局本島学術情報課長らが祝辞を述べた。さらに吉田情報ネットワークシステムの概要説明があった。

その後、学長のスイッチオンにより、学長と西川理学部長のキャンパス内高速バックボーンを利用したテレビ会議、有川九州大学大型計算機センター長と今村総合情報処理センター長によるワークステーションを利用したテレビ会議が行われ、次に、国内外から送信された電子メールによるお祝いのメッセージが大型スクリーンに披露された。相原総合情報処理センターネットワークシステム研究開発室長によるシラバス公開例の紹介など、デモンストラレーションも引き続き行われた。



▲挨拶する原田学長

世界学生オリエンテーリング選手権に参加して

オリエンテーリング(OL)って何? それは、地図とコンパスを持ってポイントを順にまわってくる、時間を競うスポーツです。日本では大学から始める人が多く、私もその一人で、つい最近まで、どんな技術を使って、どんなルートをとるかというOLのおもしろさを知りませんでした。

そんな私がセレクションに通過し、目の前にぶら下げられたスイス行きを諦めきれず、最後のチャンスだからと飛びついたのは、四月のことでした。

できるだけ準備をして飛行機に乗り、到着した憧れのスイス、フィッシュの景色は、絵はがきをそのまま目の前に広げたようでした。日本にはないオーブンのゲレンデ(立木のない野原のオリエンテーリングのコース)にも馴れ、楽しみにして臨んだレースでしたが、思うように走りきれたとは言いがたい結果となりました。しかし、自分のO



▲リレー会場(スタート・ゴール地点)

▼リレー会場にて
テントのフラッグは
研究室の人たちの手作り
(左: 稲村仁美, 右: 植田佳子)



●成績	参加国	29カ国	参加者人数	208名
* 9月6日	ショートBファイナル	(3.0km/100m/12ポスト)		
	1位		30分40秒	
	18位	植田佳子	41分05秒	
	22位	稲村仁美	47分05秒	
* 9月8日	クラシカル	(7.5km/280m/16ポスト)		
	1位		1時間01分09秒	
	67位	稲村仁美	1時間42分23秒	
	68位	植田佳子	1時間44分33秒	
* 9月10日	リレー (14カ国)			
	1位	スイス		
	失格	日本		

を磨くという意味では大きな収穫があったと思います。
四年間一緒にやってきた友だちと、スイスのすばらしいゲレンデでOLできたことが何よりうれしく、また、一人でも多くの後輩にこのようすばらしい経験をしたいと思っています。
最後に、今回の海外遠征にご支援、ご声援くださったかたがたに心からお礼申し上げます。
(体育会オリエンテーリング部 植田佳子・稲村仁美)